本文章已註冊DOI數位物件識別碼

airiti Library

「～がたい」の意味の特殊化について—「～がたい」と中国語の「難以～」との対応も含めて—

「～がたい」的語意特殊化－包含「～がたい」與と中文「難以～」的對應－

doi:10.6205/jpllat.25.200906.09

台灣日本語文學報, (25), 2009

作者/Author： 王淑琴(Shu-Chin Wang)

頁數/Page： 195-217

出版日期/Publication Date：2009/06

引用本篇文獻時，請提供DOI資訊，並透過DOI永久網址取得最正確的書目資訊。

To cite this Article, please include the DOI name in your reference data.

請使用本篇文獻DOI永久網址進行連結:

To link to this Article:

http://dx.doi.org/10.6205/jpllat.25.200906.09

DOI Enhanced

DOI是數位物件識別碼（Digital Object Identifier, DOI）的簡稱，
是這篇文章在網路上的唯一識別碼，
用於永久連結及引用該篇文章。

若想得知更多DOI使用資訊，

請參考 http://doi.airiti.com

For more information,

Please see: http://doi.airiti.com

請往下捲動至下一頁，開始閱讀本篇文獻

PLEASE SCROLL DOWN FOR ARTICLE

最完整的學術整合查詢平台—華藝線上圖書館 ● http://www.airitilibrary.com ● Find more academic articles on Airiti Library

airiti

「～がたい」的語意特殊化
―包含「～がたい」與と中文「難以～」的對應―

王淑琴
東吳大學日本語文學系助理教授

摘要

「～がたい」「～にくい」「～づらい」是常被一起討論的表示困難的類義表現。先行研究已指出「～がたい」用於正式的文體且容易與某種動詞結合。但是，關於「～がたい」的語意大多是以換說的方式記述，其根本的語意尚未被釐清。

本稿首先調查「～がたい」「～にくい」「～づらい」的前接動詞在語料庫的分佈，以前接動詞來看三者的語意分布，會發現「～がたい」與「～にくい」「～づらい」相差較遠。對此現象，本稿認為是因為「～がたい」的造語的語意特殊化程度較高。

此外，在文体或表困難的程度，前接動詞，語意特殊化這幾個方面，「～がたい」與「～にくい」「～づらい」有所區別，而這些區別在中文的「難以～」和「很難（不容易）～」之間也看得到。藉由找出「～がたい」與「難以～」的這些對應，希望能對學習日文的中文母語話者有所幫助。

關鍵字：「～がたい」　語料庫　語意特殊化　中文「難以～」

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會
2009年5月

airiti

About the specialization of meaning of "-gatai" Including the correspondences between ":gatai" and "nán yǐ -" in Chinese

Wang, Shu-Chin
Assistant Professor, Soochow University, Taiwan

Abstract

"-gatai" "-nikui" "-durai" are treated as synonyms in preceding studies, and it is indicated that "-gatai" is stiff style of writing and easy to attach some kind of verbs. But the meaning of "-gatai" is almost described by paraphrase, so the essential meaning of "-gatai" is not clarified yet so far.

This paper surveyed the preceding verbs of "-gatai" "-nikui" "-durai" in corpus. From the point of view of the preceding verbs to analysis the distribution of the meaning of those affixes, "-nikui" and "-durai" are closed to each other, but "-gatai" is far from them. It is because that the meaning of the words of "-gatai" is much specialized.

Meanwhile, "-gatai" is different from "-nikui" and "-durai" in style of writing, degree of difficulty, the attached verbs, and specialization of meaning, and those differences are also found between "nán yǐ -" and "hěn nán (bù róng yì)" in Chinese. It is hoped that through indicating the correspondences between "-gatai" and "nán yǐ -", the cues for learning Japanese can be made for the Japanese learners of Chinese.

Keyword : "-gatai", corpus, specialization of meaning, Chinese, "nǎn yǐ -"

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會
2009年6月

airiti

「～がたい」の意味の特殊化について
―「～がたい」と中国語の「難以～」との対応も含めて―

王淑琴
東呉大学日本語文学系助理教授

要旨

「～がたい」「～にくい」「～づらい」は困難を表す類義表現として広く取り上げられている。「～がたい」は文体的に硬い表現であり、また、ある種の動詞と結合しやすいことはすでに先行研究で指摘されている。しかし、「～がたい」の意味については言い換えでその意味を記述するものが多くその本質的な意味が明らかにされていない。

本稿はまず、コーパスににおける「～がたい」「～にくい」「～づらい」の前接動詞を調査し、前接動詞からその三者の意味分布を見ると、「～がたい」は「～にくい」「～づらい」とかけ離れていることを示す。その理由については、本稿は「～がたい」の造語は意味の特殊化が進んでいることにあると考える。

一方、文体や困難の程度さ、前接動詞、意味の特殊化において「～がたい」は「～にくい」「～づらい」との違いが見られるが、これらの違いは中国語の「難以～」と「很難（不容易）～」との間にも見られる。「～がたい」と「難以～」との対応を示すことにより、中国語母語話者の日本語学習者に学習のヒントを与えることができれば幸いに思う。

キーワード:「～がたい」、コーパス、意味の特殊化、中国語、「難以～」

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會
2009年12月

airiti

「～がたい」の意味の特殊化について
―「～がたい」と中国語の「難以～」との対応も含めて―*

王淑琴
東呉大学日本語文学系助理教授

1. はじめに

「～がたい」「～にくい」「～づらい」は困難を表す類義表現として広く取り上げられている。「～がたい」は「～にくい」「～づらい」と比べて文体的に硬い表現であり、また、ある種の動詞と結合しやすいことはすでに先行研究で指摘されている。しかし、「～がたい」の意味については言い換えでその意味を記述するものが多くその本質的な意味が明らかにされていない。

本稿はまず、「～がたい」「～にくい」「～づらい」の前接動詞を調査し、前接動詞からその三者の意味分布を見ると、「～がたい」は「～にくい」「～づらい」とかけ離れていることを示す。その理由については、本稿は「～がたい」の造語は意味の特殊化が進んでいることにあると考える。つまり、「～がたい」の造語は「～にくい」「～づらい」の造語には見られない意味の「抽象化」と「主観化」が起こるのである。

一方、「～がたい」は文体や困難の程度、前接動詞、意味の特殊化において「～にくい」「～づらい」との違いが見られるが、これらの違いは中国語の「難以～」と「很難（不容易）～」との間にも見られる。本稿は「～がたい」と「難以～」との対応を示し、その両者の対照研究の可能性を示す。これにより、中国語母語話者の日本語学習者に学習のヒントを与えることができれば幸いに思う。

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會
2009年6月

* 本稿は行政院国家科学委員会の研究助成（助成番号NSC95-2411-H-031-023-）による研究成果の一部である。

airiti

2. 先行研究

「～がたい」を「～にくい」「～づらい」との違いで取り上げるものには、森田（1977）、飛田・浅田（1991）、グループ・ジャマシイ（1998）、庵等（2001）がある。[1]「～にくい」と「～づらい」の意味の違いについて、森田（1977）は、「～にくい」は「客観的な困難」を表し、対象側に困難を生み出す原因・理由がある場合が多いのに対し、「～づらい」は「肉体的理由」「精神的理由」に原因することが多いと指摘している。その後の研究も基本的にこの記述に従う。しかし、「～がたい」については、言い換えでその意味を記述するものが多くその本質的な意味がまだ明らかにされていない。以下は「～がたい」に関する先行研究の記述をまとめたものである。

(1) a. 森田（1977：368）
「『困難さ』を表す」

b. 飛田・浅田（1991：149）
「『～するのはむずかしい』様子を表す

c. グループ・ジャマシイ（1998：77）
「動詞の連用形に付いて、その行為を行うことがむずかしい・不可能であるという意味を表す」

d. 庵等（2001：182）
「『心情的には～したいけれど状況的には困難である』ことを表す」

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會
2009年5月

以上の記述では「～がたい」と「～にくい」「～づらい」の違いを区別できない。例えば、次の(2)の例では、「書きたいけれど状況的には（商業誌に文学っぽい表現を書くこと）困難である」と解釈できるが、「書きにくい」を「書きがた

[1]「～がたい」を取り上げず、「～やすい」との対照で「～にくい」を取り上げるものには、藤家（1998）と近藤（2005）がある。その外に、「～にくい」と「～づらい」の異同を取り上げるものには徐（1983）、三木（2004）があり、中古の「～にくし」と現代語の「～づらい」を比べたものには近藤（2004）がある。

airiti

い」に言い換えられない。

(2) 「電子交差点のような、言葉のネットワークをつくりだしていこう……商業誌には書きにくいことを、作家一人の責任において発言していこう」――こんなことを考えて、作家、宮内勝典さん＝写真＝がインターネットのサイト「海亀通信」（略）を始めて３年目を迎える。（毎日新聞 2002/08/22）

一方、「～がたい」の前接動詞について、動詞の連用形と結合するという記述に留まり（飛田・浅田（1991））、動詞の種類を指摘したものにはグループ・ジャマシイ（1998：77）と庵等（2001：182）しか見当たらない。「～がたい」の前接動詞に関するグループ・ジャマシイ（1998：77）の記述を(3)にまとめ、庵等（2001：182）の記述を(4)に示す。

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會
2009年6月

(3) a.認識に関わる動詞
「想像しがたい・認めがたい・（考え方を）受け入れがたい・賛成しがたい」
b.発言に関わる動詞
「言いがたい・表わしがたい」
c.慣用句的な表現
「動かしがたい事実」

(4) 「『受け入れる』もしくは『表現する』ことを表す動詞とともに用いられることが多い」

しかし、「『受け入れる』もしくは『表現する』ことを表す動詞」という記述は非常に不明確であり、また、次の例が示すように、認識や発言に関わる動詞は「～がたい」だけでなく「～にくい」や「～づらい」とも結合する。

(5) a.認識に関わる動詞
「想像しにくい・理解しづらい」
b.発言に関わる動詞
「話しにくい・言いづらい」

airiti

このように、「～がたい」の前接動詞は「～にくい」「～づらい」と比較してどのような特徴があるかはまだ明らかにされていない。本稿は、まず、コーパスにおける「～がたい」「～にくい」「～づらい」の造語の前接動詞を調査する。本稿の調査から「～にくい」「～づらい」と比べて「～がたい」の前接動詞が偏っていてその他の両者とかけ離れていることが分かる。この現象について、本稿は「～がたい」の造語は意味の特殊化が進んでいることにより説明する。また、「～にくい」「～づらい」と比べて「～がたい」に見られるさまざまな特徴は、中国語の「難以～」にも見られ、「～がたい」と「難以～」との間に対応があることを示す。

3.「～がたい」「～にくい」「～づらい」の前接動詞から見る三者の意味分布

3.1 使用コーパスと調査方法

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會
2009年5月

本稿は「～がたい」「～にくい」「～づらい」の前接動詞の違いを見るため、コーパスから「～がたい」「～にくい」「～づらい」のすべての造語を取り出し計算する。本稿が使用するコーパスは毎日新聞 1996～2005 年の 10 年分のデータファイル、新潮文庫 100 冊をテキスト化したもの、CASTEL/J の CD-ROM に収録された教材テキストデータベースと小松左京作品集である。Unix の環境でコマンド grep で「～がたい」のすべての活用形を含む行を抽出し、KWIC 画面[2]で確認しながら見出し語（異なり語数）とその使用回数（延べ語数）を計算した。

見出し語を立てる原則と使用回数の計算は以下の原則に従う。①複数の漢字が当てられる動詞の場合、どちらの漢字で表してもいいものは同じ見出し語として扱い（例えば「捉

[2]Windows の環境で Devas31 というフリーウェアを使用した。

airiti

える／捕える」「絶つ／断つ」)、それぞれ異なる意味を表すものは異なる見出し語として扱う（例えば「合う／逢う／会う」「断つ／立つ」)。②動詞の受身形、使役形は活用語尾により形成された動詞と言えるため、同じ動詞の受身形、使役形（例えば「認識する」「認識される」「認識させる」）は異なる見出し語として扱う。③動作名詞は、語尾に直接スルをつけて動詞化した形のみ取り上げる。従って、「捜査しにくい」は用例として認められるが、「捜査がしにくい」は認められない。④コーパスでは、「筆舌／言葉に尽くす」のような連語に近い形で大量に出現するものを別の見出し語として扱う。[3]

このように抽出した見出し語は「～がたい」は 274 語、「～にくい」は 1457 語、「～づらい」は 355 語がある。

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會
2009年6月

3.2「～がたい」「～にくい」「～づらい」の意味分布

表 1 は「～がたい」の使用回数の上位 20 語の一覧である。比較するために、その他の二つの表現の使用回数も示しておく。表 1 から、「～がたい」と共起する動詞は「～にくい」と共起するものと共起しないものとがあるが、「言う」「理解する」「付ける」を除いて「～づらい」とあまり共起しない、或は共起しても使用回数が低いことが分かる。

表 1 「～がたい」の上位 20 語

1~10 位	がたい	にくい	づらい	11~20 位	がたい	にくい	づらい
言/云う	485	448	86	受け入れる	111	46	2

[3] グループ・ジャマシイ（1998）でも述べられているように「～がたい」の造語は慣用句的な表現がある。そのため、連語に近いものを一つの見出し語として扱う。

airiti

堪/耐/絶える	380	0	0	得る	99	214	4
信じる	275	3	0	認める	90	16	1
許/赦す	214	0	0	近寄る	90	6	0
忘れる	201	9	0	筆舌/言葉に尽くす	85	1	0
替/変/換/代える	184	17	1	いかんともする	64	0	0
理解する	176	211	19	動かす	63	12	2
棄/捨てる	149	11	1	分かつ	58	0	0
避ける	125	2	0	名状する	53	0	0
優劣/甲乙/差などを付ける	115	90	12	納得する	50	18	1

文學 5
文學
2009年6月

表2から「～にくい」と結合する動詞は「～づらい」とも結合するが、「考える」「言う」「得る」「理解する」を除いて「～がたい」とはあまり結合しない、または結合しても使用回数が少ないことが分かる。

表2「～にくい」の上位20語

1~10位	がたい	にくい	づらい	11~20位	がたい	にくい	づらい
分かる	0	2422	243	読む	2	299	140
考える	22	1418	34	使う	1	246	86
見える	0	1102	22	受ける	0	231	25
なる	4	508	14	見る	0	224	45
取る	0	505	64	付く	0	216	2

airiti

やる	0	466	82	得る	99	214	4
言/云う	485	448	86	かかる	0	214	3
出る	0	431	10	理解する	176	211	19
つく	3	401	6	つかむ	1	204	37
入る/這入る	2	302	25	できる	1	194	1

表３から、「～づらい」と結合する動詞は「～にくい」とも結合するが、「言う」「考える」を除いて「～がたい」とはあまり結合しない、または結合しても使用回数が少ないことが分かる。

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會

表３「～づらい」の上位 20 語

1~10 位	がたい	にくい	づらい	11~20 位	がた	にくい	づらい
分かる	0	2422	243	見る	0	224	45
読む	2	299	140	動く	0	136	42
言/云う	485	448	86	つかむ	1	204	37
使う	1	246	86	推す	0	4	36
やる	0	466	82	考える	22	1418	34
当てにする	0	1	67	生きる	4	80	34
取る	0	505	64	絞る	0	32	31
打つ	1	102	63	出す	1	190	30
いる	0	5	55	行く	0	57	28
聴/聞く	0	50	54	受ける 入る/這入る	0 2	231 302	25 25

表１２３から、動詞との結合から「～がたい」「～にくい」

airiti

「～づらい」の意味分布を見ると、意味上「～にくい」と「～づらい」は近いが、「～がたい」はその両者とかけ離れていることが分かる。特に「～がたい」と「～づらい」について、「言う」「理解する」などの発話・思考動詞や一部の動詞（「付ける」）を除いて、「～がたい」と結合する動詞は「～づらい」と結合せず或は結合しても使用回数が少なく、また、「～づらい」と結合する動詞も「～がたい」と結合せず或は結合しても使用回数が少なく、両者はほとんど相補分布的な傾向が見られる。このように、直感的に「～がたい」は「～にくい」「～づらい」と意味がかけ離れていることをその前接動詞を調査することにより検証することができる。

4.「～がたい」の意味の特殊化と「～がたい」の前接動詞

台灣日本語文學報29
台灣日本語文學會
2009年6月

4.1「～がたい」の意味の特殊化

「～がたい」は「～にくい」「～づらい」と異なり、話し言葉ではあまり使われない（飛田・浅田（1991））。「～がたい」と「～にくい」「～づらい」の差はそれだけでなく、「～がたい」の造語はその他の二者と比べて意味の特殊化が進んでいる。意味の特殊化は語が形成される場合によく見られる現象であり、例えば、影山（1993）が指摘しているように、「船乗り」や「運転手」は単にその乗り物を運転する人ではなく、職業としてその活動に従事する人を指す。意味の特殊化は程度の問題であるが、意味の特殊化が進むとその意味を辞書に登録する必要があり、このプロセスは語彙化（lexicalization）と呼ばれる（Bauer（1983）、影山（1993）参照）。「～がたい」の造語は意味の特殊化が進んでおり、単に「～のが難しい」の意味を表すのではなく、抽象的な意味しか表さず、また、「怒り、驚き、責め、感嘆」など話者のある種の感情のこもったニュアンスが生じやすい。

(6)(7)が示すように、「捨てにくい」は「捨てる」という

airiti

具体的な動作をするのが難しいことを表すのに対し、「捨てがたい」は「捨てる」という具体的な動作を表す意味がなく、「あるものを手放すのが難しい」のように意味が特殊化している。

(6) 消費者の意識が変われば店舗や生産者も変わるし、ごみが散乱していなければ観光客もごみを捨てにくい。
(毎日新聞 1999/9/9)

(7) おつけはやはり蜆（しじみ）かアサリがいいが、時にはナメコでもいいし、ジャガイモや大根も捨てがたい。
(毎日新聞 1998/1/11)

「捨てる」には「捨てる」という具体的な動作を表す意味以外に、「手放す」という意味もある((8)を参照)。しかし、「～がたい」と結合する場合は、「捨てる」の意味から一つの意味が選ばれ、その意味をもとに意味の特殊化が行われたと考えられる。

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會
2009年5月

(8)【具体的な動作】ごみ／タバコの吸殻を捨てる
【手放す】故郷／恋人を捨てる

「捨てがたい」の例から分かるように、「～がたい」は動詞と結合する際に、その動詞の抽象的な意味をもとに意味の特殊化が行われる。(9)の「救いがたい」は、(9a)の「救助する」という具体的な意味ではなく(9b)の「好ましくない状態をなくす」という抽象的な意味をもとに意味の特殊化が行われる。また、(10)の「忘れがたい」も同様に、(10b)のように、「忘却する」という抽象的な意味をもとに意味の特殊化が行われる。

(9) a.瀕死の犬を救う　→*瀕死の犬は救いがたい
(c.f「瀕死の犬は救えない」)
b.貧困を救う　→ 貧困は救いがたい

(10) a.傘を忘れる　→*傘は忘れがたい
b.言葉を忘れる　→ 言葉は忘れがたい

airiti

Bauer（1983）は語彙化を通時的なプロセスとして捉え、臨時造語（nonce formations）、慣習化（institutionalization）を経て語彙化の段階に達すると述べている。慣習化の段階では、語の潜在的なあいまいさが消え意味が定着するが、その段階では造語はまだ透明（transparent）であるとしている。例えば、”telephone box” は、その文字通りの意味から「形が電話のような箱」「電話のそばに置いてある箱」「電話として機能する箱」などさまざまな解釈が可能であるが、慣習化の段階では「公衆電話室（telephone kiosk）」の意味で定着している。従って、「～がたい」の造語は意味が特殊化したものの、その造語全体の意味が透明なので語彙化の段階に達せずまだ慣習化の段階にあると考えられる。

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會
2009.6.6

一方、「～がたい」の造語は「怒り、驚き、責め、感嘆」など話者のある種の感情のこもったニュアンスが生じやすい。例えば、(11)の「信じがたい」は「驚き」、(12)の「耐えがたい」は「感嘆」の気持ちが込められている。

(11) ここに職人が一万とか二万、本によると三万人もいたということになっていますが、当時の大阪の人口は四十万人ぐらいですから、銅吹所で三万人働いていたということは、とても信じがたいわけです。
（CASTELJ-CDROM/『小松左京作品集』）

(12) 昔気質の父親にとって、跡つぎ息子の死は、耐えがたい悲しみである。
（CASTELJ-CDROM/『酒飲みの心理学』講談社）

このように、「～がたい」の造語は動詞の抽象的な意味をもとに意味の特殊化が行われ、また、「怒り、驚き、責め、感嘆」など話者のある種の感情のこもったニュアンスが生じやすく、意味の特殊化が進んでいる造語であることが分かる。

airiti

[4]本稿では、「～がたい」の造語に見られる上記の意味の特殊化をそれぞれ意味の「抽象化」と「主観化」と呼ぶ。

4.2「～がたい」と結合する動詞

前節で見たように「～がたい」の造語は抽象的な意味しか表さない。従って、「～がたい」は抽象的な概念を表す動詞と結合しやすい。表1を見ると「～がたい」と結合する使用回数の多い動詞は、「捨てる」と「動かす」を除いてすべて対象物へ及ぼす影響が少なく、抽象的な精神活動を表すものであることが分かる。「～がたい」は「捨てる」のような具体的な動作を表す動詞とも結合するが、その場合、3.1で見たように、意味が特殊化し抽象的な意味しか表さない。また、例えば、「打つ」という具体的な動作を表す意味の場合、(13)が示すように、「～にくい」「～づらい」は使えるが、「～がたい」は使えない。コーパスでは「打ちがたい」は1例のみあるが、それは(14)が示すように「打つ」は「対象物に力強く働きかける」という具体的な動作を表す意味で使われるのではなく、「囲碁を打つ」という派生的な意味で使われるものである。

台灣日本語文學報29
台灣日本語文學會
2010年6月

(13)この投手のボールは打ち{×がたい／○にくい／○づらい}。

(14)しかし、1手勝ちでは黒aやbが打ちがたいから、

---

[4]一方、「～がたい」の造語が形成された後、意味がさらに多義化する場合もある。(ⅰ)の「得がたい」は「得るのが難しい」の意味を表しているが、(ⅱ)の「得がたい」は「貴重な」の意味を表す。前者の意味は「～にくい」や「～づらい」に言い換えられるが、後者の意味は「～にくい」や「～づらい」に言い換えられない。

(ⅰ) 家から近い場所に、私の希望どおりの家が売り出されていたが、主人との価値観の違いから了解が得がたく、結局その家は売れてしまいがっかりした。 (毎日新聞 2001/10/3)

(ⅱ) 苦しみながらも自在に「掛け金」の操作のできる七瀬は、筒井康隆にとってどんなにか大切な得がたい役者であったことか！
(新潮『エディプスの恋人』筒井康隆)

airiti

黒４５には十分１手の価値がある。

（毎日新聞 2005/3/9）

1節の例(2)で見た「書きやすい」の例を「書きがたい」に言い換えられないのは、「書く」は具体的な動作を表す動詞であり、意味の「抽象化」が進んでいる「～がたい」と結合しにくいからである。また、2節で見た「～がたい」の前接動詞が「～にくい」「～づらい」とかけ離れていることも意味の特殊化が進むことと関連している。つまり、「～がたい」の造語は意味の特殊化が進んでおり、一つのまとまった表現として定着している。そのため、「～がたい」と結合する動詞は決まっているものが多い。一旦造語が形成され慣習的に使われると、意味が類似する接尾辞との結合を阻止（blocking）[5]する現象が起こり、「～がたい」と結合する動詞は「～にくい」「～づらい」とあまり結合しなくなるのと考えられる。

台灣日本語文學報29
台灣日本語文學會
2009.9.N

しかし、「～がたい」の造語のうち、具体的な動作を表す動詞と結合しながら意味の特殊化が起こらない造語がある。例えば、(15)が示すように、意味の特殊化が起こらず具体的な動作を表す意味で「～がたい」と結合し、一見例外のように見える例がある。

(15)横の空白には彼の実に読みがたいペン字でこう書かれてある。　（新潮『楡家の人びと』北杜夫）

(15)の「読みがたい」は「ほとんど読むことができない」の意味を表している。森田（1977）は、「～がたい」は「ほとんど不可能に近い」という意味を持つ点で「～にくい」「～づらい」と異なると指摘している。具体的な動作を表す動詞が「～がたい」と結合できるのは、「ほとんど不可能に近い」という「～がたい」の意味が活性化され、「～にくい」や「～

[5] 語構成に見られるblockingの現象について、Bauer(1983:87-88)を参照。

airiti

づらい」より優先的に選ばれるのと考えられる。しかし、そのような造語は、コーパスでは使用回数が少なく「～がたい」の周辺的な造語と考えられる。[6]

5. 日本語の「～がたい」と中国語の「難以～」

本稿の考察結果と先行研究の記述を合わせて「～がたい」の造語は「～にくい」「～づらい」の造語と比べて次のような特徴がある。

① 文体的に硬い表現である。
② 困難の程度が高く、ほとんど不可能に近い。
③ 前接動詞はほとんど対象物へ及ぼす影響が少なく、抽象的な精神活動を表す動詞である。慣用句的な表現もある。
④ 意味の特殊化（「抽象化」と「主観化」）が進んでいる。

そのうち、①と②は先行研究で明らかにされたことであり、③は本稿と先行研究の考察結果をまとめたものであり、④は本稿で明らかにされたことである。以下、「～にくい」「～づらい」と比べて「～がたい」に見られた以上の特徴は、中国語では「很難（不容易）～」と比べて「難以～」にも見られることを示し、日本語の「～がたい」と中国語の「難以～」との対応を示す。また、本稿は日本語の「～がたい」と中国語の「難以～」の対照研究をするものではなく、文体、困難の程度、前接動詞、意味の特殊化の面においてその両表現の対応が見られることを示し、中国語母語話者の日本語学習者に学習のヒントを与えることに留めておく。両表現の対照研究は両表現をさまざまな角度から比較する必要があり別稿に譲りたい。

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會
2009年6月

[6] コーパスでは「読みがたい」はわずか2例あるのに対し、「読みにくい」「読みづらい」はそれぞれ299例、140例あり、「読みがたい」は数量から見ると非常に周辺的な表現であることが分かる。

airiti

5.1 文体と困難の程度

まず、文体について次の例が示すように、「很難（不容易）～」は書き言葉と話し言葉で使えるが、「難以～」は話し言葉で使いにくいという差がある。

(16) A：這個熨斗好用嗎？

B：這個熨斗｛○很難／?不容易／×難以[7]｝使用。

また、台湾の「中央研究院語言研究所」が構築した現代中国語コーパス「現代漢語平衡語料庫」で話し言葉に限定して検索した結果[8]、「很難～」は 13 例、「不容易～」は 11 例あったが「難以～」は一例もなかった。

一方、「～がたい」は困難の程度が高くほとんど不可能に近いことを示すが、「難以～」も「很難（不容易）～」と比べて困難の程度が高く、副詞「簡直（まったく）」と共起しやすいことが見られる。(17a)の「難以相信」は「無法相信」とほとんど同義である。

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會
2009年6月

(17) a.這樣的判決，簡直令人難以相信。

b.?這樣的判決，簡直令人很難相信。

c.??這樣的判決，簡直令人不容易相信。

このように、「～にくい」「～づらい」と比べて「～がたい」に見られる文体が硬く困難の程度が高いという特徴は、「很難（不容易）～」と比べて「難以～」にも見られることが分かる。

5.2 前接動詞

「～がたい」の前接動詞は、「難以～」の「～」の部分に

---

[7] 本稿では「×」は非文を表し、「?」はやや不自然、「??」はかなり不自然を表す。

[8] ウェブサイトは http://www.sinica.edu.tw/SinicaCorpus/である。「現代漢語平衡語料庫」が収録したのはすべて台湾の中国語母語話者による書物や発話データである。「設定媒體搜尋範圍」の「會話訪談」で話し言葉に限定して検索した。

airiti

相当するため、「現代漢語平衡語料庫」から「難以～」と共起する表現（「～」の部分）を抽出し、結果をさらに処理させ「難以～」と共起する上位の表現を表 4 にまとめた。[9] MI スコアは 3.0 以上の場合その共起に意味があるので、3.0 以下のものを取り除いた（freq(y)はコーパス全体における「～」の出現回数、freq(x,y)は「～」が「難以」と共起する回数である）。[10]

表 4 「難以～」と共起する MI スコアが 3.0 以上の語

MI	freq (y)	freq (x,y)	y:詞/詞類	MI	freq (y)	freq (x,y)	y:詞/詞類
6.771	383	30	想像(VK)	8.507	9	4	逆料(VH)
4.698	1522	15	接受(VC)	8.065	14	4	释懷(VH)
6.753	156	12	忍受(VK)	6.991	41	4	辨認(VC)
8.219	30	10	忘懷(VJ)	5.908	121	4	彌補(VC)
4.579	1143	10	相信(VK)	5.884	124	4	擺脫(VC)
5.856	287	9	理解(VK)	5.707	148	4	逃避(VC)
6.242	130	6	預料(VE)	5.077	278	4	估計(VE)

台灣日本語文學報 台灣日本語文學會 2009年10月

[9] 処理の手順は次のようである。キーワードを「難以～」と指定し KWIC 画面を出してから、「進階處理」を選びさらに細かい処理をさせる。Collocation をチェックし、また、「難以～」とその直後の文字との共起を計算するので、範囲を「0-1」と指定する。MI スコアが 3.0 以下で取り除かれたのは「在（MI＝0.171）と「用（MI＝2.684)」であり、いずれも動詞ではないものである。

[10] MI は Mutual Information の略で MI スコアはコロケーション（語と語の共起）の強さ（strength）を計る指標であり、3.0 以上の共起は意味がある（Hunston(2002:71-75)）。計算式は以下のようである。

$$\text{MI スコア} = \log_2 \frac{\text{ある単語 A と B の共起頻度} \times \text{総単語数}}{\text{単語 A の頻度} \times \text{単語 B の頻度}}$$

airiti

6.708	68	5	抗拒(VC)	4.981	306	4	相處(VA)
6.236	109	5	承受(VC)	4.81	363	4	實現(VC)
5.234	297	5	形容(VE)	4.075	757	4	控制(VC)
5.087	344	5	適應(VJ)	3.951	857	4	避免(VE)

表４から、「難以～」と共起するMIスコアが3.0以上の語は二文字の漢語に限られることが分かる。中国語では同じ意味を表す一字漢語と二字漢語を比べると、例えば、「住 vs.居住」「管 vs.管理」「幫 vs.幫助」のように、二字漢語の方が抽象的で書き言葉に使われる傾向がある。また、表４の動詞の意味を見ると、すべて対象物へ及ぼす影響が少なく、抽象的な精神活動を表すことが分かる。

一方、「難以～」も「～がたい」と同様、慣用句的な表現になっているものがある。(18)の「難以釋懷(理解しがたい)」は慣用句的な表現になっているため、「讓人（～をさせる)」をその前に入れる(18a)の表現はその間に入れる(18b)の表現より安定する。これに対し、「很難（不容易）～」は単に「～のがむずかしい（簡単ではない)」の意味を表し、「讓人（～をさせる)」の表現をその前や後のどちらに入れても安定した語順になる。[11]

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會
2009年6月

(18) a.這場比賽在驚愕中結束，實在讓人難以釋懷。
　　b.這場比賽在驚愕中結束，實在難以讓人釋懷。
(19) a.有些人的想法讓人｛很難／不容易｝理解。
　　b.有些人的想法｛很難／不容易｝讓人理解。

また、(20)の例が示すように、「難以撼動的事實（動かし

[11] 検索エンジン「Yahoo!奇摩」で台湾のホームページを対象に検索した結果、「讓人難以釋懷」は2990ページあるが、「難以讓人釋懷」はわずか98ページある。これに対し、「讓人很難理解」と「很難讓人理解」はそれぞれ12630ページ、16980ページあり、どちらの用法も多いことが分かる。この検索結果は(18b)は多少不自然さが感じられるという直感にも合っている。

airiti

がたい事実)」は慣用句的な表現になっているため、「難以～」を「很難（不容易）～」に言い換えるとかなり不自然な表現になる。

(20) a.這是個難以撼動的事實。
b.??這是個很難撼動的事實。
c.??這是個不容易撼動的事實。

このように、「難以～」と「～がたい」は「～」の部分に来る動詞に意味的な類似性があり、また、慣用句的な表現になっているものがあるという対応が見られる。

5.3 意味の特殊化

3節で見たように、「～がたい」の造語は意味の特殊化が進み、抽象的な意味しか表さず、また、「怒り、驚き、責め、感嘆」など話者のある種の感情のこもったニュアンスが生じやすい。本稿では、前者を意味の「抽象化」、後者を意味の「主観化」と呼ぶ。「難以～」も意味の「抽象化」と「主観化」の傾向が見られる。次の例が示すように、「難以忘記」「難以拯救」の表現は抽象的な概念を表す名詞と共起しやすく、「難以～」は「～がたい」と同様、意味の「抽象化」が見られる表現である。

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會
2009年6月

(21)a.忘記傘 → ??這是把讓人難以忘記的傘
b.忘記名言 → 這是句讓人難以忘記的名言
(22)a.拯救流浪狗 → ??這是隻難以拯救的流浪狗
b.拯救社會 → 這是個難以拯救的社會

また、「難以～」は話者のある種の感情が入る表現であり、それを「很難～」に変えるとそのニュアンスがなくなる。例えば、(23)は「怒り」(24)は「驚き」のニュアンスがあるが、「難以～」を「很難～」に言い換えても文が成立するがその「怒り」や「驚き」のニュアンスがなくなる。

(23) 對於這樣的指責，我難以認同。

airiti

(24) 我難以相信，那麼多的人，竟能在一剎那之間，走得乾乾淨淨！　　（中央研究院「現代漢語平衡語料庫」）

このように、「～にくい」「～づらい」と比べて「～がたい」に見られる①文体的に硬い表現、②困難の程度が高い、③前接動詞が抽象的な概念を表し慣用句的な表現がある、④造語の意味の「抽象化」と「主観化」という特徴は、「很難（不容易）～」と比べて「難以～」にも見られることが分かる。「～がたい」と「難以～」はどこまで対応しているか、どこが対応していないかは更なる対照的な考察が必要であるが、「～がたい」と「難以～」両表現は以上述べた特徴において対応が見られると言える。

6. まとめとこれからの課題

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會
2019年6月

本稿は、コーパスにおける「～がたい」「～にくい」「～づらい」の前接動詞を調査し、「～がたい」の前接動詞は「～にくい」「～づらい」の前接動詞とかけ離れており、決まった動詞しか来ないことを明らかにした。これは、「～がたい」の造語は意味の特殊化が進んでいて「～がたい」とその前の動詞が一つのまとまった表現になるため、「～がたい」の前接動詞は「～にくい」「～づらい」と結合しないのである。「～がたい」の造語は抽象的な意味しか表さず、また、「怒り、驚き、責め、感嘆」など話者のある種の感情のこもったニュアンスが生じやすい。先行研究は困難表現としてこの三つの表現を取り上げるが、「～がたい」の造語は意味の特殊化が進んでいて、その他の両者とさまざまな面で異なることを学習者に提示する必要がある。

一方、中国語の「難以～」が文体、困難の程度、前接動詞、意味の特殊化において「很難～」との違いが見られ、つまり、日本語の「～がたい」は中国語の「難以～」との間に対応が見られると言える。中国語母語話者の日本語学習者に「～が

airiti

たい」「～にくい」「～づらい」を提示する際に、まず「～がたい」はさまざまな面で「～にくい」「～づらい」と異なり中国語の「難以～」と類似した表現と理解させ、「～にくい」と「～づらい」の違いは視点が対象物にあるか話者にあるかということにあると説明すれば、この三つの類義表現の理解に役に立つのではないかと考える。

本稿は、「～がたい」と「難以～」との対応を示し、その両表現の対照研究の可能性を示した。「～がたい」と「難以～」はどこまで対応しているか、どこが対応していないかを考察することを今後の課題としたい。

参考文献

庵功雄等著（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房

グループ・ジャマシイ（1998）『日本語文型辞典』くろしお出版

近藤明（2004）「『～ニクシ/ニクイ』の語史への一視点--現代語『～ヅライ』との対照から」『金沢大学教育学部紀要　人文科学・社会科学編』53 金沢大学 pp.108-100

近藤裕子（2005）「『～やすい/にくい』の意味・用法について--話し手の評価と用法上の制約」『国文学踏査』17 大正大学国文学会 pp.216-206

徐修程（1983）「『－にくい』と『－づらい』の異同について」『日本語教育研究論纂１』国際交流基金（在中華人民共和国日本語研修センター紀要）pp.67-72

飛田良文・浅田秀子（1991）『現代形容詞用法辞典』東京堂出版

藤家智子（1998）「難易文に関する一考察 ： 「-やすい/にくい」の意味・用法をめぐって」『日本語・日本文化研究』

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會
2009年6月

airiti

16 京都外国語大学 pp.28-42
三木望（2004）「『～づらい』について：自発と否定、可能の連続性」『分析と言語類型―柴谷方良教授還暦記念論文集―』くろしお出版 pp.127-145
森田良行（1977）『基礎日本語辞典Ⅰ』角川書店
Bauer, Laurie (1983) *English word-formation*. Cambridge: Cambridge University Press.
Hunston, Susan (2002) *Corpora in Applied Linguistics*. Cambridge: Cambridge University Press

台灣日本語文學報25
台灣日本語文學會
2009年6月